

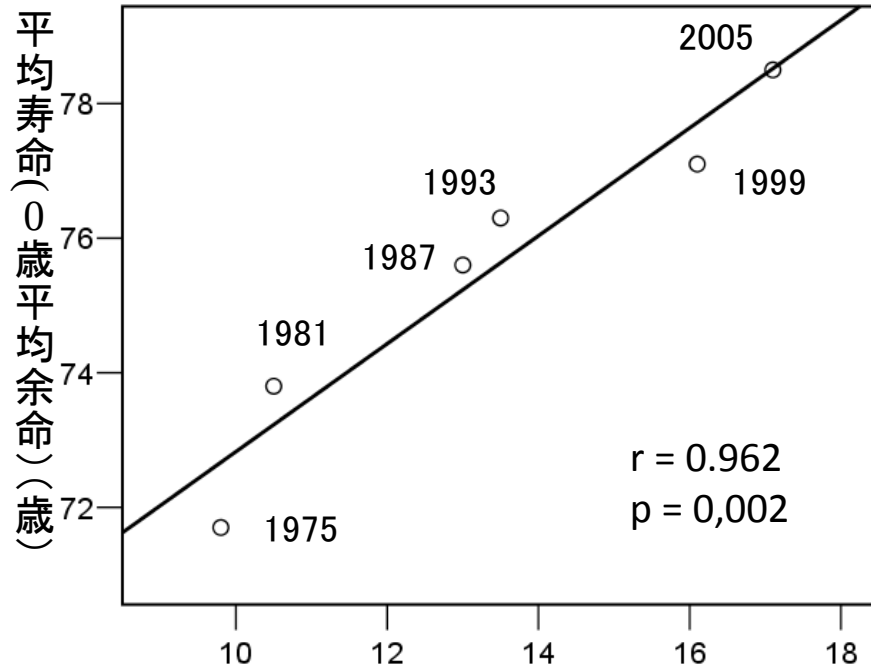
口腔保健推進における多職種連携 ーその先駆的取組ー

開催主旨

深井穫博
日本歯科医師会地域保健委員長

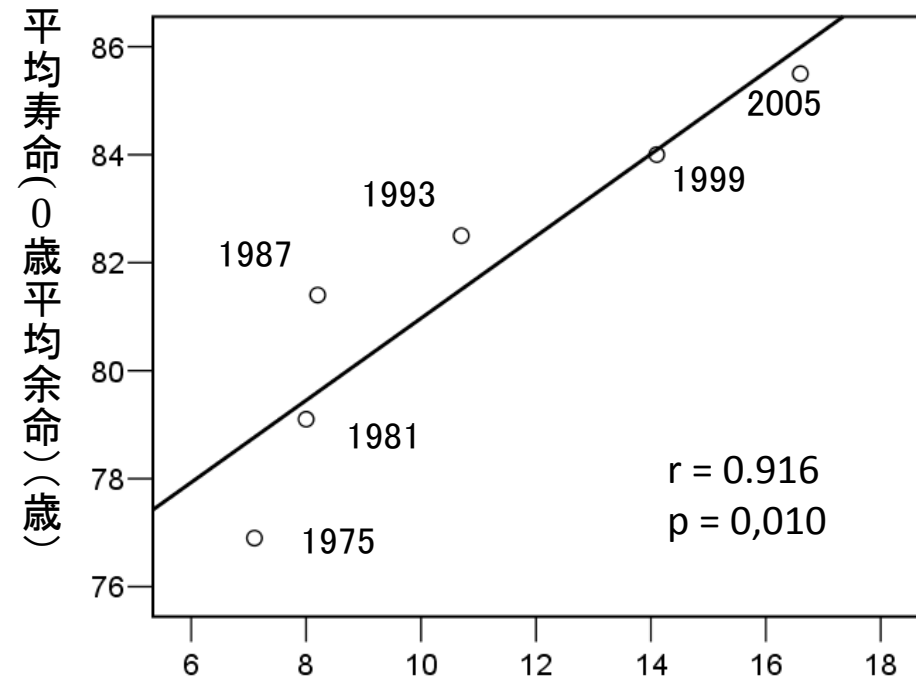
歯数の増加と寿命の延伸との関係

男性



一人平均現在歯数(65~74歳)

女性

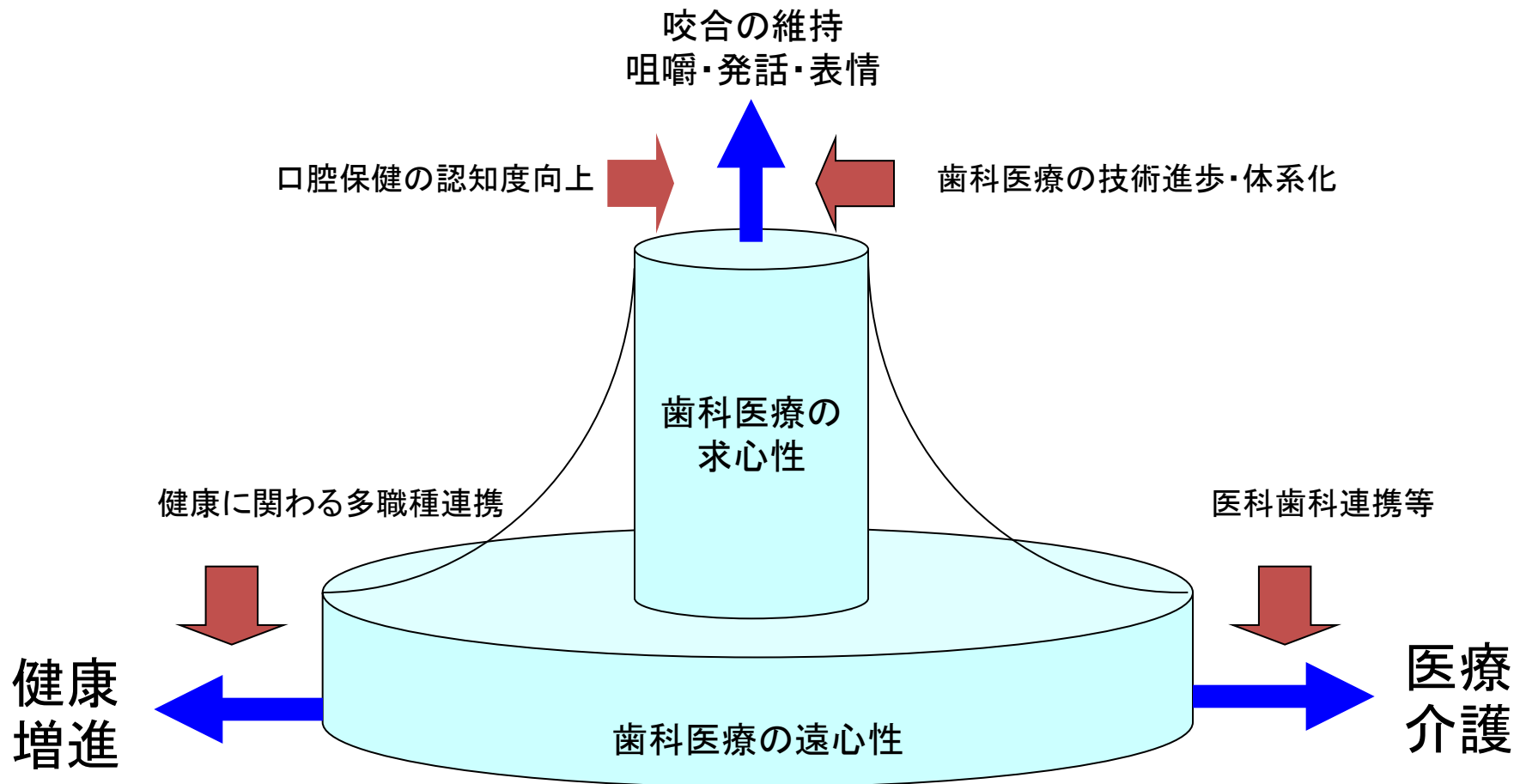


一人平均現在歯数(65~74歳)

日本人の現在歯数と平均寿命との関係(1975年~2005年)

厚生労働省歯科疾患実態調査および生命表を基に、1975年から2005年までの両者の推移をプロットすると、相関係数で男性0.96,女性0.92という強い相関がみられた。これまでの宮古島における歯数と生命予後との関連の調査結果から考えると、日本人の平均寿命の延びに歯数の増加が寄与している可能性があることは少なくとも否定できない。

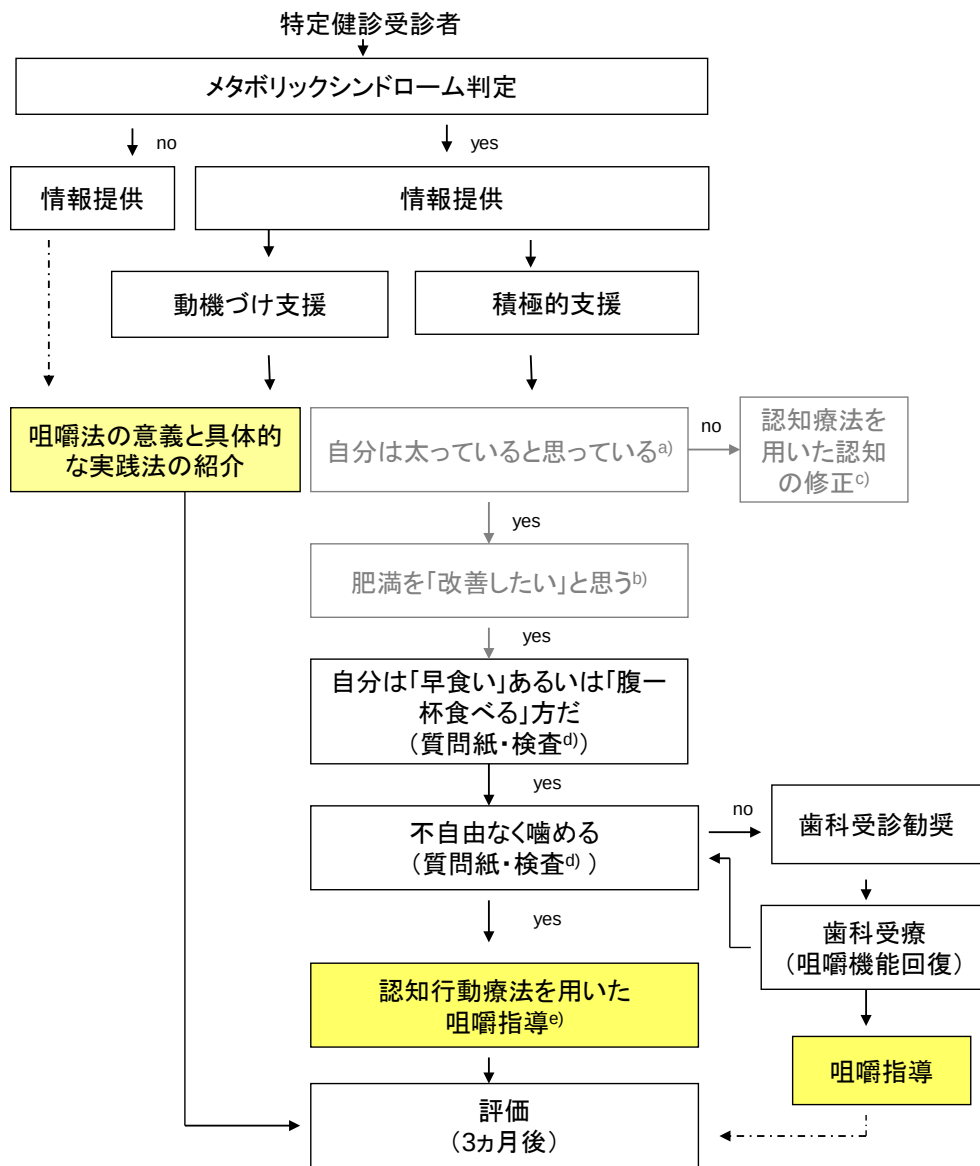
地域歯科医療の再生と 健康増進に寄与する歯科医療



個人の特性に合わせた 保健指導のためのアセスメント

「歯の健康力」 判定結果	具体的課題 (口腔保健質問紙調査票の質問に対応)							
困りごと QOL	歯や口の状態で 気になることが ある		噛み具合	外観	発話	口臭	痛み	その他
自覚症状 口腔内状態	奥歯の噛みしめ		歯みがき時の出血		歯ぐきのブヨブヨ		歯にしみる	歯の本数
保健行動	間食	たばこ	就寝前 の 歯磨き	フッ素 入り 歯磨き 剤	歯間ブ ラシ ・フロ ス	ゆっく り 噛む	歯磨き 指導	定期健診
環境	かかりつけ歯科医院		歯科医院へ通院		病気の 治療	周囲の 人々の 関心	自信を 持てる 歯	職場や 外出先 の 歯磨き

■：問題あり ■：やや課題あり □：問題なし



口腔機能に応じた咀嚼指導のフローチャート(案)

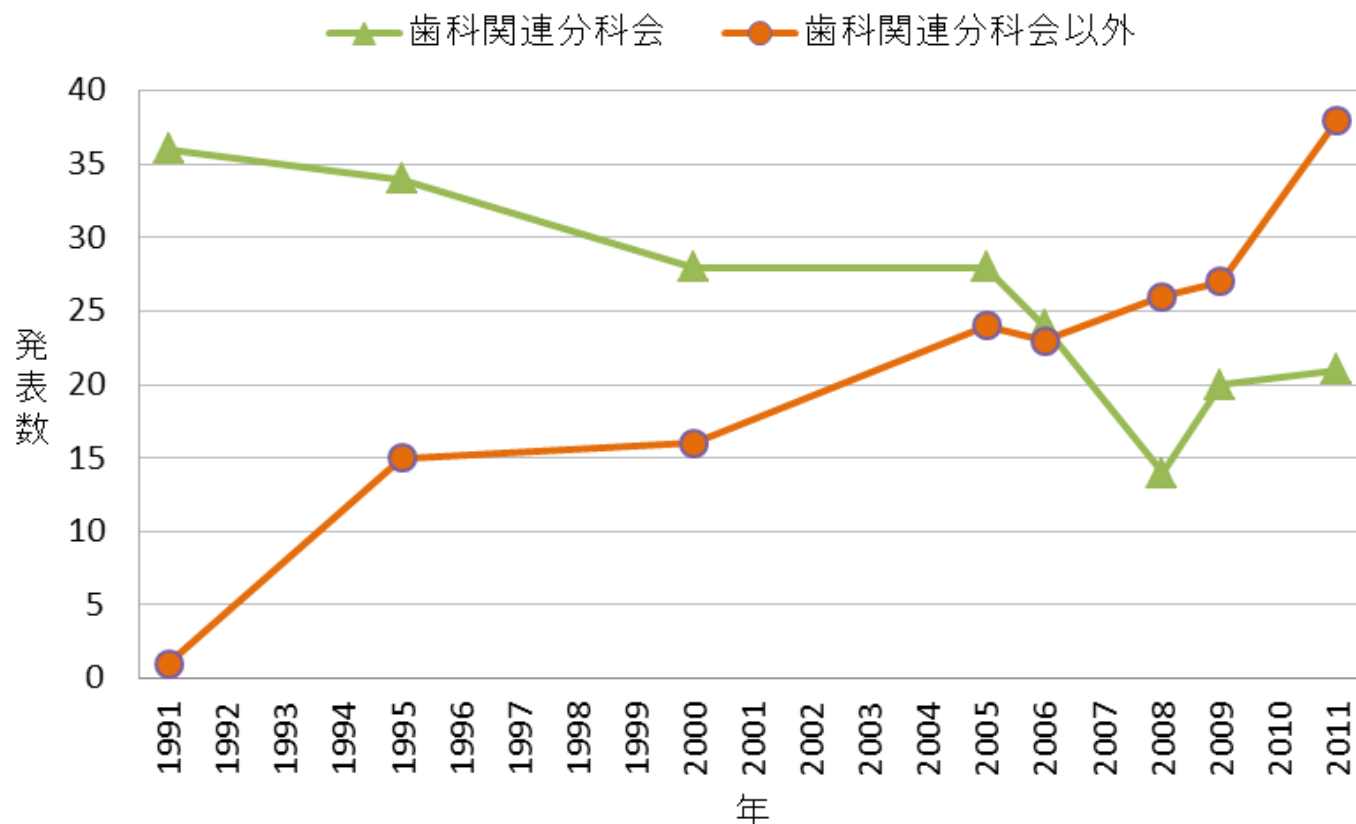
厚生労働科学研究 口腔機能に応じた
保健指導と肥満抑制やメタボリックシン
ドローム改善との関係についての研究
平成21年度総括・分担報告書(H21一循
環器等(生習一一般一012)(主任研究
者安藤雄一), 2010年5月

今回の公衆衛生学会における**歯科関連**の **59**発表の分科会別内訳

• 第11分科会	口腔保健	21	(36%)
• 第6分科会	高齢者のQOLと介護予防	8	} 38 (64%)
• 第5分科会	親子保健・学校保健	6	
• 第3分科会	生活習慣病・メタボ	5	
• 第7分科会	高齢者の医療と福祉	5	
• 第14分科会	医療制度・医療政策	3	
• 第17分科会	公衆栄養	3	
• 第8分科会	地域社会と健康	3	
• 第16分科会	保健所・衛生行政・地域保健	1	
• 第1分科会	疫学・保健医療情報	1	
• 第22分科会	国際保健	1	
• 第2分科会	ヘルスプロモーション	1	
• 第4分科会	保健行動・健康教育	1	

歯科関連の発表は、 歯科の分科会以外で増加中

日本公衆衛生学会総会における歯科関連発表の
分科会内訳(歯科の分科会か否か)の推移



（基本理念）

第二条

歯科口腔保健の推進に関する施策は、次に掲げる事項を基本として行われなければならない。

一 国民が、生涯にわたって日常生活において歯科疾患の予防に向けた取組を行うとともに、歯科疾患を早期に発見し、早期に治療を受けることを促進すること。

二 乳幼児期から高齢期までのそれぞれの時期における口腔とその機能の状態及び歯科疾患の特性に応じて、適切かつ効果的に歯科口腔保健を推進すること。

三 保健、医療、社会福祉、労働衛生、教育その他の関連施策の有機的な連携を図りつつ、その関係者の協力を得て、総合的に歯科口腔保健を推進すること。